

## 山陰本線ワーキングチーム検討報告書（案）

山陰本線ワーキングチーム(WT)では、以下のような現状認識の下、地域、交通事業者及び行政が連携し、諸施策を実施することにより、将来に禍根を残さないよう努力していくことを確認した。

### 1 現状認識

#### (1) 豊富な観光資源を有しながら、遠方からの列車による来訪者が極めて僅少である

但馬地域は、風光明媚な山陰海岸ジオパーク、日本遺産にも認定されている北前船寄港地、麒麟獅子舞に加え、文豪墨客に愛された城崎温泉、湯村温泉など、広く知れ渡った観光資源を有している。さらには、特別天然記念物のコウノトリの野生復帰の拠点、或いはイヌワシの生息地でもあり、松葉ガニ、但馬牛、美方大納言小豆など海の幸、山の幸にも恵まれている。加えて、近年では、芸術文化観光専門職大学の開学や豊岡演劇祭の但馬全域での開催の兆しなど、若年世代をも惹きつける新たな地域資源も芽生えつつあり、我が国有数の観光エリアになり得る地域である。

しかしながら、但馬地域への移動性向を見ると、約1千万人の来訪者のうち、約9割が車による来訪となっており、車での移動が卓越する300kmから400km圏域、換言すれば京阪神都市圏からの来訪者が大勢を占める状況にある。

このため、兵庫DC 或いは大阪・関西万博を契機とした積極的な情報発信により、広く全国さらには海外からの多くの来訪が期待できる可能性を秘めている。

#### (2) 運行頻度に難があり、列車を積極的に選択する要因に乏しい

トンネル断面が狭小であり、電路の設置に多大な経費と時間を要することから、電化への移行は厳しい状況にある。また、運行車両は車齢40年を超えるものもあり、更新時期を迎えつつある。

一方で、近年の技術革新により、電路を持たずとも電化に匹敵する運行が可能となる水素車両等の研究も進んでおり、これらの導入により、速達性、快適性、サービス水準の向上が見込める可能性がある。

駅に隣接する観光施設として、城崎温泉、余部橋梁があるが、大乘寺、湯村温泉、山陰海岸ジオパークなどについては、最寄駅からのアクセス利便性に難がある。

また、駅前広場は特急停車駅で整備されているが、山陰本線城崎温泉駅以西の城崎温泉駅を除く駅では、周辺に商業施設が乏しく、また無人駅化が進んでいることから、賑わいに欠ける状況にある。

このため、地域の方々の独創的な発想により、駅周辺の活性化を促し、

人が人を呼ぶ好循環を創出していく必要がある。

城崎温泉駅以西を目的地とする移動については、1便/時間の運行頻度であり、加えて列車の乗り継ぎ若しくは他の移動手段による移動を余儀なくされるなど、列車利用を阻害する要因の一つである。とりわけ、香美町以西の地域は、通学通院等の日常流動が多いなど鳥取県域との結びつきが強いが、この運行頻度が利用の妨げとなっている可能性が高い。

これらの状況を踏まえ、鳥取駅～城崎温泉駅について、特急も含めた運行頻度の向上を図ることにより、観光利用をはじめ、日常利用の喚起を促すことが望まれる。

### (3) 異なる交通事業者との連携が不足している

浜坂駅、城崎温泉駅等、特急停車駅からは、阪神間と結ばれる高速バスが運行されているが、列車、高速バスの発着点が似通っているものの、発着時間の調整等、相互の連携に乏しい状況にある。

列車、バスとも乗務員不足が問題視されている中、時間・料金・施設の障壁を取り払うなど、競合関係を補完関係に変化させることにより、利用者利便に即した総合的な移動手段の構築が期待される。

### (4) 今後人口減少が見込まれる中、沿線地域の努力のみで JR ローカル線の維持は厳しい

但馬地域は、東京都とほぼ同じ 2,100 km<sup>2</sup>の面積に約 15.5 万人が暮らすエリアであるが、円山川流域を除いて平野部が少なく、山林が 83%を占めるなど、集落、業務所が点在せざるを得ない地形的特色を有している。

このため、日常生活或いは業務活動の端末交通は自動車に頼らざるを得ない宿命を帯びており、但馬地域に存する山陰本線を但馬地域のみで維持することは極めて困難である。

一方、ウィズコロナ社会が現実味を帯びており、さらには近年頻発する自然災害を避ける観点から、人、モノ、資本の地方回帰が本格化する兆しも見受けられる状況にある。

このような時流に乗り、国が推し進める地方創生を実現させ、活力ある国土を作り上げるためには、沿線地域のみならず、国の積極的な関与が不可欠である。

## 2 施策展開の考え方

山陰本線の維持・活性化に向けては、観光利用の促進を主とし、観光利用の利潤で日常利用の利便性を高めることを基本としつつ、次の5つの項目に注力していく。

- (1) 公共交通の利便性向上等、観光地へのアクセス改善に向けた取組
- (2) 兵庫 DC や大阪・関西万博を契機とした観光利用者数の増加に向けた取組
- (3) 駅周辺整備による利用者数の増加に向けた取組
- (4) 外国人や移住者、専門職大学生など日常利用における利便性向上策の実施検討
- (5) 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築

なお、施策の実施については、課題の解決に時間を要する等の理由から、3つの時間軸を設ける。

- a. 短期的施策：直ちに実施する施策
  - ・ 観光施策（兵庫 DC 等）と連携し、インバウンド旅客の回復状況を注視するとともに、国内旅客の呼び込みにも注力し、観光による旅客増加を目指す。
  - ・ 運行頻度を補うためのチケットレス特急料金の活用や列車とバスの連携強化など、利用者利便に即し、かつ即時的に対応可能な施策展開を図る。
- b. 中期的施策：大阪・関西万博に向けて実施する施策
  - ・ 短期的施策の効果を持続させるとともに、大阪・関西万博に訪れた方々の沿線地域への来訪を促す施策の展開を図る。
  - ・ 演劇列車の運行等、従来手段であった列車を目的化する施策についても、積極的に展開を図る。
- c. 長期的施策：兵庫 DC 及び大阪・関西万博による列車利用の効果を持続させ、公共交通の積極的利用を促す施策
  - ・ 中期的施策の効果を見定めながら、地域の利便性向上に繋がる施策を展開し、列車利用のスパイラルアップを目指す。
  - ・ 路線バスを始めとする道路交通との適切な役割分担を図り、冗長性、代替性に富む交通体系を実現する。

### 3 主な WT における提案と具体の取組

WT 構成員からの提案を2の区分に従い集約し、取組ごとに内容、具現化の時期を整理するとともに、早急の実施若しくは検討に着手すべき取組の明確化を図った。検討の結果、実現可能となった取組から、事業者、自治体及び住民とが連携し速やかに実施する。

#### (1) 公共交通の利便性向上等、観光地へのアクセス改善に向けた取組

[各団体からの提案]

提案された取組	取組内容	具現化の時期		
		短期	中期	長期
ICカードの導入/IC導入駅の拡大/キャッシュレス決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅周辺のICOCA利用施設の拡大</li> <li>・ ICOCA利用促進の取組</li> <li>・ キャッシュレス決済の検討</li> <li>・ 路線バスとの併用使用</li> </ul>	○	○	○
新型車両の導入（高速化・直通化・水素車両等）	更新時期を踏まえた検討	○	○	○
特急料金見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期間を限定したチケット特急券の設定</li> <li>・ 実証実験の実施</li> </ul>		○	



[早期に検討に着手する取組等]

具体的な内容	時期	事業者(JR・バス)	行政等	住民
チケット特急券利用	年度内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明会の実施</li> <li>・ 各企業への紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報誌等でのPR</li> <li>・ 行政職員への周知・企業への周知</li> </ul>	積極的な利用
ICカード・新型車両	次年度	導入検討	支援の検討	ICカード利用

## (2) 兵庫 DC や大阪・関西万博を契機とした観光利用者の増加に向けた取組

[各団体からの提案]

提案された取組	取組内容	具現化の時期		
		短期	中期	長期
列車を活用・想定したイベントの開催	・謎解き列車や演劇列車 ・地域の魅力の再発見や魅力発信イベント	○	○	
マーケティングリサーチ	実態やニーズの把握	○		
但馬独自の列車利用につながる仕組	専門職大学生と連携した車両内演劇	○		
周遊切符造成	周遊切符による観光地巡り	○		
地域の魅力発信	Instagram 写真募集	○		



[早期に検討に着手する取組等]

具体的な内容	時期	事業者(JR・バス)	行政等	住民
WESTER への情報集約	年度内	・ WESTER への情報登録者の拡大に向けた取組み ・ 掲載内容の PR	・ 既存のイベントのピックアップ ・ 広報誌等での PR	WESTER の活用
演劇列車	次年度	事業協力	豊岡演劇祭と連携した開催	イベント参加
駅周辺のスポットの発信や来ないといけない体験	年度内 次年度	駅や列車内での企画協力	ここでしかできない体験や周辺の魅力の発信	企画への参画 列車利用でイベント参加
マーケティングリサーチの実施	年度内 次年度	既存データの確認(提供依頼含む)	既存データの確認(提供依頼含む)	

### (3) 駅周辺整備による利用者数増加に向けた取組

[各団体からの提案]

提案された取組	取組内容	具現化の時期		
		短期	中期	長期
駅周辺の環境整備	道路の舗装、駐車場・駐輪場の整備、駅の景観整備、駅のバリアフリー化、ステーションライブラリー	○	○	○
列車内の活用	写真や絵画等の掲示	○		
駅前でのイベント開催	キッチンカー誘致、芸術鑑賞	○	○	
駅への愛称付加	地域資源と繋がる名称の付加			○



[早期に検討に着手する取組等]

具体的な内容	時期	事業者(JR・バス)	行政等	住民
駐車場や駐輪場整備	次年度以降	整備の協力	整備の実施	積極的な利用
ステーションライブラリー	次年度	駅舎利用	環境整備	積極的な利用
既存事業を活用したイベント	年度内	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用を促す工夫</li> <li>利用者へのPRの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存のイベントのピックアップ</li> <li>広報誌等でのPR</li> </ul>	事業への参画
駅舎の装飾や作品展示	次年度	駅舎使用	広報誌等でのPR	装飾や掲示、賑わいづくり
キッチンカーを集めた駅前の賑わいづくりなどイベント企画・開催	年度内 次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前施設使用</li> <li>公共交通利用を促す工夫</li> <li>イベントへの協力</li> <li>利用者へのPRの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者の選定</li> <li>イベント企画</li> <li>地元活動家の募集</li> <li>広報誌等でのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施</li> <li>企画への参画</li> <li>列車利用でイベント参加</li> </ul>

(4) 外国人や移住者、専門職大学生など日常利用における利便性向上策の実施検討

[各団体からの提案]

提案された取組	取組内容	具現化の時期		
		短期	中期	長期
定期券や特急料金購入補助、 学生支援、通学・通勤支援	・定期券等の購入助成・学生の通学支援 (沿線自治体の統一実施) ・セミチケット(区域内学生定額交通パス) ・駅前レンタルバイクや駐車場利用とのセット割引	○	○	○
駅活性化事業補助	地域団体の取組み支援	○		
住民の列車利用への意識醸成 (モビリティマネジメント)	・列車利用を想定した会議やイベント実施 ・体験乗車、企業表彰、ノーマーカーデー	○	○	
学生との意見交流会・住民調査	学生や住民の意見の集約・把握	○		
ジオトレイルとの連携	列車を活用したハイキング	○	○	



[早期に検討に着手する取組等]

具体的な内容	時期	事業者(JR・バス)	行政等	住民
・学生定期券購入補助 ・若者遠距離通学補助 ・通勤定期補助・奨励金 ・列車利用者補助 ・特急料金補助 ・小中学生の列車通学等の検討 ・免許返納者補助	継続実施		継続実施(各市町施策の統一に向けた検討)	通勤通学、旅行、出張、日常移動での列車利用
学生によるチケット特急券利用の周知	年度内	学生への周知・説明	・広報誌等でのPR ・沿線学校への周知	学生のJ-WEST会員登録
学生との意見交流会	年度内	意見交換・反映	意見交換・反映	利用促進策の提案
住民調査	年度内	意見の反映	・住民の意見集約・発信 ・意見の反映	利用促進に繋がる意見の開示
駅活性化事業補助	次年度	事業協力	事業補助	事業実施
住民の列車利用への意識醸成	年度内	・公共交通(列車・バス)の乗り方についての記事・動画作成 ・利用者の声を聴く場の設定での協働 ・イベントへの協力	・列車利用を想定した会議やイベント開催 ・職員による維持・促進に向けた取組み検討 ・広報誌、ケーブルテレビ等で公共交通をみんなで守る意識啓発広報 ・親子で列車を学ぶイベント ・ノーマーカーデーの励行	・日常での積極的な列車利用 ・イベントへの参画・参加
列車やバスの体験乗車	年度内 次年度	・公共交通利用を促す工夫(クーポンやインセンティブ)の準備 ・利用者へのPRの実施	広報誌等でのPR	列車利用でイベント参加
列車を活用したジオトレイルハイキング	次年度 年度内	・公共交通利用を促す工夫 ・利用者へのPRの実施	広報誌等でのPR	イベントへの参画・参加

(5) 地域の発展にも繋がる地域公共交通体系の構築

[各団体からの提案]

提案された取組	取組内容	具現化の時期		
		短期	中期	長期
二次交通の充実・WESTER の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町スポットを WESTER への情報集約</li> <li>・二次アクセスを整備し、見える化</li> <li>・デマンド型タクシーの実証運行</li> <li>・デマンドバス</li> <li>・イバウンド対応</li> </ul>	○	○	
外国人向け JR レールバスのバス交通への拡大	特別企画乗車券のバス交通への拡大		○	○
交通連合（交通合議体） 列車バスの併用きっぷ・増便実証実験・貨客混載事業	交通連合に向けた「相互利用の併用乗車券」	○	○	



[早期に検討に着手する取組等]

具体的な内容	時期	事業者(JR・バス)	行政等	住民
WESTER への情報集約 (二次アクセス・イベント・スポット情報)	年度内	各市町が提出する情報の登録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・スポット情報・二次アクセスの抽出</li> <li>・広報誌等での WESTER の PR</li> </ul>	WESTER の活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・列車とバスの相互利用</li> <li>・レールバスの適用拡大に向けた確認</li> </ul> →交通連合に向けた取組	年度内 次年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイヤ調整や相互利用の実証実験の検討</li> <li>・デマンドバス</li> <li>・レールバス適用範囲拡大の検討（万博に向けて）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証実験に必要な財源の確保</li> <li>・交通連合（地域交通会社設立を含む）の検討</li> </ul>	実証実験時等の利用
二次交通の充実	次年度	路線バスダイヤの見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前以外への拡充</li> <li>・列車とバスの接続改善</li> </ul>	積極的な利用



#### 4 目 標 : 2027 (令和9) 年度 (5年後)

輸送密度 2,000 人/日を目指すこととし、表に示す 1997 (平成9) 年の各駅の乗車人数を目標値として、兵庫 DC、大阪・関西万博の効果を見極めつつ、2027 (令和9) 年までの達成を目指す。

駅名	城崎温泉	竹野	佐津	柴山	香住	鎧	餘部	
目標値	1,350	400	140	160	830	70	90	
参考	H9実績	1,353	400	144	157	830	72	90
	R2実績	574	159	68	72	299	11	30

駅名	久谷	浜坂	諸寄	居組	
目標値	30	750	120	60	
参考	H9実績	27	753	118	63
	R2実績	8	183	35	6

備考：輸送密度  
H9：2,517 人/日  
R2：506 人/日

#### 5 今後の展開

- (1) ワーキングチームを継続し、取組ごとの役割分担等詳細を検討・協議するとともに、確定した取組を推進する体制についても合わせて検討し、PDCA サイクルを回しつつ、その実効性を高める。
- (2) 観光施策との連携を深化させ、列車利用が見込める 400km を超えるエリアからの来訪者の増加を目指す。
- (3) 隣接する岩美町、鳥取市との連携を強化するとともに、但馬地域 3 市 2 町の施策連携を図り、山陰本線 (梁瀬駅以西) 全線の活性化に繋げる。
- (4) 山陰本線の維持・活性化は、国が推し進める地方創生の根幹をなすものであり、国に対して山陰本線の維持・活性化への積極的な関与を求めていく。